

CHIE AOKI works
2019 - 2021





漆黒の闇に覆われた静寂の世界の中で、自己と向き合う人の姿を表現しています。それは、様々な葛藤や孤独、寂しさといったあらゆる感情を抱え込みながら現代を生きる人間の姿です。

BODY 19-2

H63×W60×D100cm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール



“個”を超越した精神世界へと昇華する姿を表現しています。スッと立ちあがったつま先を微かに地面から離すことで浮遊感を持たせています。リアル性を追求した下半身では、女性のしなやかに伸びる脚線美と張り詰めた緊張感を意識して制作しました。

BODY 20-1

H260×W50×D50cm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール



物哀しい雰囲気を醸し出しながら座り、うなだれている人間の姿を表現しています。それは、あらゆる煩悩を抱えながら生きる人間像です。なまめかしいほどの深い艶を湛えながら堅牢な性質をもつ漆の鏡面と乾漆ならではの穏やかな丸みを活かした造形表現です。

BODY 20-2 孤独の身体

H100 x W55 x D80 cm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール



身体を小さく丸めながら、深海に潜り込んで行く感覚を表現しています。それは宇宙や生命といった大きな存在と自身が融合していく感覚です。足を曲げる角度や指1本1本の動き、さらには爪の角度といった細部に至るまで、最終的なイメージに作用する要素と捉え、神経を研ぎ澄ませて造形しました。

BODY 21-1

H35×W99×D70cm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール



大きな闇が重力によって垂れ下がり、その不確実な闇の中にのめり込んでいく人の姿を表現しています。それは、情報や物に溢れる現代で、何を信じて生きてゆけば良いのか、頼るものを失った不安や恐怖を感じる人の姿です。満たされているはずなのに寂しさを感じたり、孤独感に押しつぶされそうになってしまう人間はとても儚く複雑な感情を持った生き物だと感じます。一方で、そうした不安や孤独を抱えながらも強く逞しく生きる姿はおおらかに美しくもあります。

BODY 21-3

H95xW58xD69cm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール



上半身に覆い被さる漆黒の闇に身を委ね、今にも倒れそうなバランスを保ちながらも足を踏みしめ立ち続ける人の姿を表現しています。それは、本来の自分自身を捉えることが難しい現代社会の中で、ひたむきに自己と向き合う人の姿です。

BODY 21-6

W430×D600×H1500mm

乾漆技法／漆、麻布、発泡スチロール

融体化する身体

青木は大学時代に漆と出会い、その不思議な質感を持つ艶に魅了され、漆での創作活動を始めました。「漆を用いることで、自分の中にある得体の知れない“何か”を表現できるのではないかと、漆のミステリアスな漆黒を普遍的な身体と融合させることにより、孤独や葛藤という人間の内に渦巻く複雑な感情世界を表現してきました。具象と抽象が組み合わせられ、漆の奥深い艶が特徴的な作品は、人間表現の追求という青木の創作姿勢を明示してくれます。

青木がBODYシリーズの制作を始めて17年が経ちます。人間の内面世界を表現するために、具象である身体と抽象の塊を融合させた独自のスタイルは、漆という工芸材料を用いながらも、コンテンポラリーアートとしての意味合いを強く有しています。青木は自らの初期作品を表すのに当たり、他者からの遮断というキーワードを用いています。それは何層にも重なり強固になる漆のシェルターに守られた人の姿であり、鏡面のような漆の表面が周囲を跳ね返すバリアのようだったと振り返ります。また、その姿は何処か物哀しいポーズで、社会の中で感じる違和感から自分を守ろうとしているようでもありました。それが近年では、上半身の姿が現れだし抽象部分と融体化するようになってきました。また、周囲を遮断するかのようだった初期作品とは異なり、周囲を吸収しながら鑑賞者と一体感を得るような存在へと変わり始めました。最新作「BODY 21-1」は、宇宙や生命といった大きな存在と自身が融合していくイメージで、身体を小さく丸め、深海に潜り込んでいく感覚を表現した作品です。漆黒の深い艶と乾漆技法(麻布や和紙を漆で貼り重ねて形作る方法)特有の穏やかな丸みを活かすため、足と塊の起伏のつながりが美しく見えるよう意識したことで、より身体の融体化が印象的な作品となっています。宇宙や自然と比べた時の人間という存在の小ささ、しかし一方で複雑な精神世界を有し、尊くも儂い存在である人間。大きな変化の中で多様化がますます進む現代社会において、自分自身を見失いそうになりながらも自分の心と向き合って生きていく姿を、漆という美しく堅牢な素材を用いて表現しています。

現代美術 艸居「青木千絵 融体化する身体」展
プレスリリース記事より抜粋





これらは漆黒の闇の中でうごめいている「何か」であり、硬いような柔らかいような得体の知れない塊として、私の無意識の中に存在する「何か」です。

私にとってドローイングは、自身の深淵から湧き起こるイメージや感情をストレートに表出させることができる表現手段です。それは、長い時間をかけて堅実に取り組む漆の工程とは対称的で、感覚の赴くまま、その瞬間瞬間に湧き出た感情を描き出す作業と言えます。こうして生まれたドローイングと対峙することで、自身の現在と根源を見つめ、次なる作品への糧としています。



Drawing_#01,#02,#06,#08
W35.5 H51 cm
紙、パステル



滲ませた水彩絵具が乾くと、隅が濃くなりシャボン玉のような膜を描くことができます。まるで私の作品を覆う漆膜に通ずると直感し、この手法を利用して人間が膜の中に包まれている様子を描きました。



Drawing_#12
W52.5 H75 cm
紙、水彩絵具

Drawing_#11
W37.5 H53 cm
紙、水彩絵具





北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 特別展 I

工芸的な美しさの行方 工芸、現代アート、アール・ブリュット（勝興寺/富山）

2021.9.10-10.24





特別展「フェミニズムズ／FEMINISMS」金沢21世紀美術館／金沢

2021.10.16-2022.3.13





特別展「フェミニズムズ／FEMINISMS」金沢21世紀美術館／金沢

2021.10.16-2022.3.13



融体化する身体

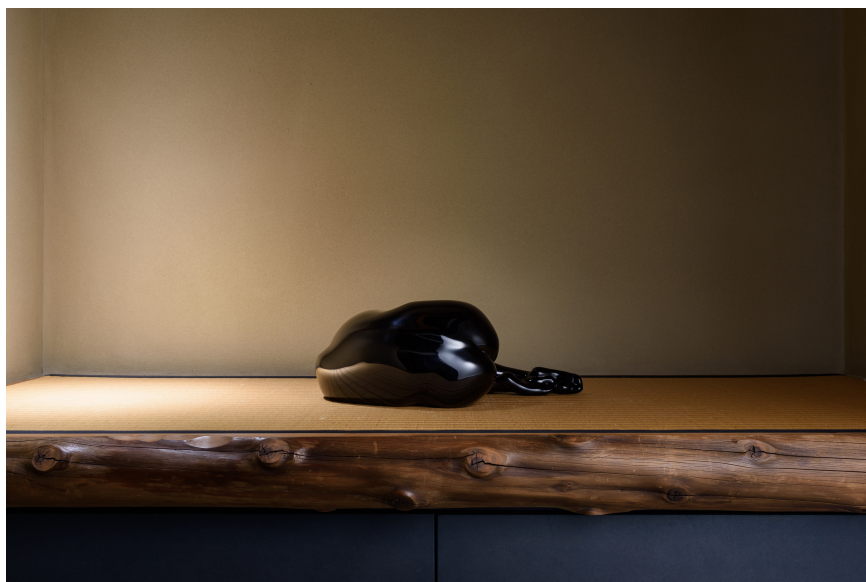
青木千絵 Chie Aoki

舩居 SORU



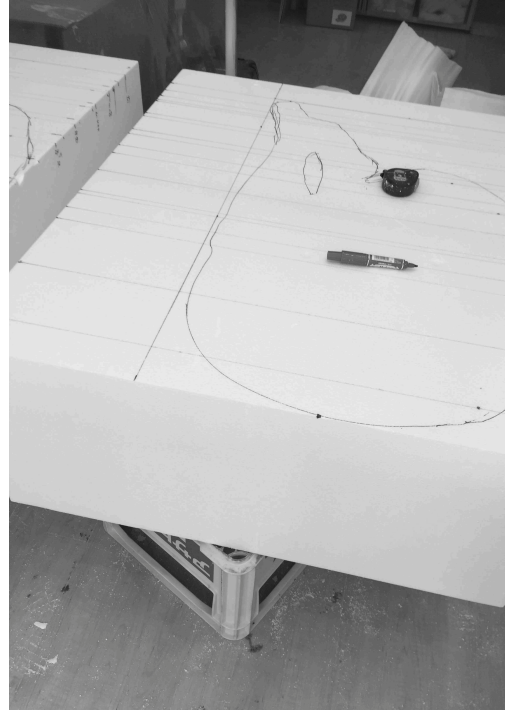
「融体化する身体」現代美術 艸居／京都

2021.11.13-12.18



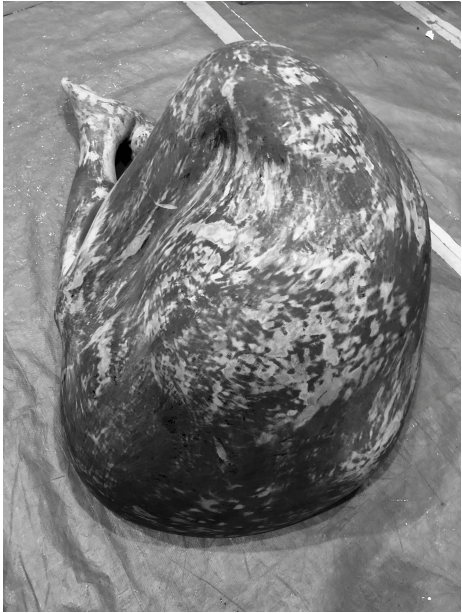


「融体化する身体」現代美術 舛居／京都
2021.11.13-12.18











青木 千絵 CHIE AOKI

1981 岐阜県生まれ
現在 金沢美術工芸大学 工芸科 講師

学歴

2005 金沢美術工芸大学工芸科卒業
2007 金沢美術工芸大学 大学院 修士課程 美術工芸研究科 修了
2010 金沢美術工芸大学 大学院 博士後期課程 美術工芸研究科
工芸研究領域 漆・木工コース 修了
博士（芸術）取得

個展

- 2006 「青木千絵展」ギャラリー手（東京）
2007 「青木千絵展」ギャラリー手（東京）
2009 「青木千絵展」ギャラリーアート・コンセプト（金沢・石川）
2010 「青木千絵展」ガレリア フィナルテ（名古屋・愛知）
2011 「URUSHI BODY」INAX ギャラリー2（東京）
2017 「美術の中のかたち一手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」
兵庫県立美術館（神戸・兵庫）
2018 「孤独の身体」現代美術 艸居（京都）
2021 「融体化する身体」現代美術 艸居（京都）

グループ展

- 2006 「TAMA VIVANT 2006 今、リズムが重なる展」多摩美術大学ギャラリー（東京）、みなとみらい駅地下3階コンコース（横浜・神奈川）
「第45回 北陸中日美術展」金沢21世紀美術館（金沢・石川）
2008 「TAMA VIVANT II 2008 イメージの種子」多摩美術大学ギャラリー（東京）、みなとみらい駅地下3階コンコース（横浜・神奈川）
「金沢アートプラットフォーム2008」椿原天満宮、金沢21世紀美術館（金沢・石川）
2009 「アートフェアULTRA002」SPIRAL（東京）
2010 「漆芸の未来を拓くー生新の時2010ー」石川県輪島漆芸美術館（輪島・石川）
「第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ」金沢21世紀美術館（金沢・石川）

- 「会津・漆の芸術祭」会津若松市（会津若松・福島）
- 「漆 そのあたらしい表現を巡って」喜多方市美術館（喜多方・福島）
- 2011 「会津 漆の芸術祭 2011 YELL for TOHOKU 東北へのエール ― 継（きずな）― 世界の女性漆アーティストからのメッセージ」（会津若松/喜多方・福島）
- 2012 「漆・うるわしの饗宴展」山脇ギャラリー（東京）、京都市立芸術大学ギャラリー アクア（京都）、喜多方市美術館（喜多方・福島）
- 2013 「HUBEI INTERNATIONAL TRIENNIAL OF LACQUER ART 2013」湖北美術館（武漢・中国）
- 2014 「ヒトのカタチ、彫刻」静岡市美術館（静岡）
- 2015 「豊穡なるもの」豊川市桜ヶ丘ミュージアム（豊川・愛知）
- 「現代の美術作家4人展」関市立篠田桃紅美術空間（関・岐阜）
- 「うるしのみらい〜高橋節郎に続く人々」高橋節郎記念美術館（安曇野・長野）
- 「現代の美術作家展」みんなの森 ぎふメディアコスモス（岐阜）
- 「GIFU DNA -玉井正爾と愉快的教え子たち-」岐阜県美術館（岐阜）
- 2016 「アートツーリズムへの発地」THE SHARE HOTELS 金沢（金沢・石川）
- 「HUBEI INTERNATIONAL TRIENNIAL OF LACQUER ART 2016」湖北美術館（武漢・中国）
- 「金沢の現代工芸最前線」金沢市立安江金箔工芸館（金沢・石川）
- 「蜘蛛の糸」豊田市美術館（豊田・愛知）
- 2017 「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」ミネアポリス美術館（ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ）
- 「国際漆展・石川2017」石川県政記念しいのき迎賓館（金沢）
- 「すがたかたち Shapes and Figures -『らしさ』とわたしの想像力-」SPIRAL（東京）、ワコールスタディーホール（京都）
- 2018 「現代漆芸」金沢市立安江金箔工芸館（金沢・石川）
- 「漆の現在2018展」日本橋三越本店 本館 美術特選画廊（東京）
- 「漆表現の現在 Vol.1」日本橋高島屋 美術画廊X（東京） 「水と土の芸術祭 2018」旧齋藤家別邸（新潟）
- 「アート国際交流 中国交流展-濃厚な聊天」金沢市民芸術村（金沢）
- 「MATERIAL×ART—工芸×アート—」石川県立伝統産業工芸館（金沢）
- 2019 「HUBEI INTERNATIONAL TRIENNIAL OF LACQUER ART 2019」湖北美術館（武漢、中国）
- 「artKYOTO2019」（京都・二条城）
- 「方法の発露2019 ― 制作論の再検討 ―」しいのき迎賓館（金沢）
- 「現代工芸の展開2019」金沢市立安江金箔工芸館（金沢）

- 「ART021 Shanghai Contemporary Art Fair2019」 Shanghai Exhibition Center
(上海、中国)
- 「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」 金沢21世紀美術館 (金沢)
- 「Design Miami 2019」 Miami Beach Convention Center (マイアミ、アメリカ)
- 2020 「Assemble ー集積する技法と身体ー」 伊丹市立工芸センター (兵庫)
- 「平面と立体ー共鳴するノスタルジア」 高島屋日本橋〜京都〜大阪〜名古屋〜
横浜巡回展
- 2021 特別展「表現する漆 併設 寄贈七宝作品展〜イセコレクションより」
金沢市立中村記念美術館 (金沢)
- 「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 特別展I工芸的な美しさの行方 工芸、
現代アート、アール・ブリュット」 (富山)
- 特別展「フェミニズムズ／FEMINISMS」 金沢21世紀美術館 (金沢)
- 2022 「アーツワダ10周年記念展インター+プレイ」 十和田市現代美術館 (青森)
- 「工芸の金属と漆美」 イセ食品株式会社 (富山)

受賞

- 2005 日本漆工奨学賞
- 2009 KANABI クリエイティブ賞 2009 卒業・修了部門 学長賞
- 2019 金沢・世界工芸コンペティション優秀賞

パブリックコレクション

- 金沢美術工芸大学 / 石川
- ミネアポリス美術館 / ミネアポリス, ミネソタ, アメリカ
- 湖北美術館 / 武漢, 中国
- 徳島県立近代美術館 / 徳島
- MORIKAMI MUSEUM / フロリダ, アメリカ
- 伊順芸術空間 / 瀋陽, 中国
- イセ文化基金 / 富山
- 兵庫県立美術館 / 兵庫
- 金沢21世紀美術館 / 石川

撮影：

来田猛...表紙

今村裕司...BODY19-2,BODY20-1,BODY21-1,BODY 21-3,融体化する身体

池田ひらく...BODY21-6

方野公寛...北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI

木奥恵三...フェミニズムズ/FEMINISMS

青木千絵 ウェブサイト

<https://www.chieaoki.com>

